

校訓を活かした学校づくりの推進

～ 校訓を見つめ直し、実践する ～



－ 神奈川県小田原市立鴨宮中学校の校訓「真 善 美」 －

この「真 善 美」という言葉は、日本で初めてノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹博士から贈られたものです。学校では、「真 善 美」の心を素直に表現し、行動できる生徒の育成を図ることを目標としています。

校訓を活かした学校づくりの取組で、児童生徒、教職員、家庭・地域の人々の価値観が共有され、全体が一致協力した取組が可能になり、生徒の自尊心等が育成されます。

校訓の持つ意味

- 児童生徒… 教員や友人との結び付きを強めます
- 教員… 育成を目指す児童生徒の人間像を表したものです
- 家庭・地域… 地域と学校とを結び、世代間で継承され、学校を支えるものです

校訓を活かした学校づくりの実例

校訓を活かした学校づくりとして、全国の各学校で、伝統的な校訓の継承や新たな校訓の創造など、創意工夫ある取組が行われています。

埼玉県立深谷商業高等学校

地域に根ざした伝統的な校訓を教育活動に活かした事例



大正10年の高校創設時に、渋沢栄一が来校して「士魂商才」、「至誠」と揮毫したことから、「質素剛健」、「士魂商才」、「至誠」が校訓として受け継がれてきました。

この校訓の下、全校を挙げて「在り方生き方教育」を推進し、商業関係の資格の取得や日常の教育活動と部活動に活かすようにしています。

渋沢栄一の郷土の商業高校であることが精神的な支えとなっており、地域に多くいる卒業生は校訓をととても大切にしており、地域にも校訓が定着しています。

山形県鶴岡市立朝陽第三小学校



家庭と連携して、子どもたちに身に付けさせたいマナーをまとめた「三陽しぐさ」を定め、地域の思いを学校づくりに具体化した事例

大人の期待を児童に伝え、地域社会の児童すべてにまなざしを同じくして児童の成長を見守り育てるため、各家庭において「家訓」を持つことを保護者に依頼し、各家庭の家訓を調査しました。

それをきっかけに、16項目の「三陽しぐさ」を選定し、創立100周年の機会に伝統の継承と新たな校風の創造に取り組みしました。

この「三陽しぐさ」は、学校から家庭へ、そして地域への広がり、深まりを図っていきました。

大阪府高槻市立第七中学校

生徒が主体的な活動により、理想とするスローガンを定め、その頭文字を取った「JASMIN 運動^(※)」と呼ばれる積極的な生徒指導を展開した事例



生徒会執行部が良い学校はどのような学校かを議論して、生徒自身が理想とするスローガン「JASMIN 運動」を決め、生徒会活動としてスタートしました。

生徒の自主的な取組意識が高まり、取組が成功したことで生徒の自信となり、いじめ問題を取り上げ、ポスター作成や学年集会での意見交換などのいじめ撲滅運動へと発展していきました。

(※) J (授業を大切にしよう!) A (挨拶をしよう!) S (掃除をしよう!) MI (身だしなみを整えよう!) N (NO チャイムに取り組もう!)

鳥取県立倉吉西高等学校

生徒・保護者・教職員の希望を集結して定めた「生徒憲章」を中心に学校づくりを行っている事例



創立70周年を期に、特色ある学校づくりを生徒の手で進めたいという強い要望があり、生徒心得(校則)の見直しが生徒総会で決定され、教職員もこの要求を受け止め、生徒・保護者・教職員の希望を集結して「生徒憲章」の制定に発展しました。

「生徒憲章」の制定により、生徒は自信を持って自主的・自発的に行動するようになり、生徒と教職員の信頼関係ができ学校としての一体感が生まれていき、授業に集中する生徒が増え、学力が向上したり、部活動においてもよい成績を上げるようになるなどの効果も現れました。

兵庫県立芦屋国際中等教育学校

英語の校訓で多種多様な背景の児童生徒を統合する事例



27カ国の生徒が在籍し、異なる言語環境や文化的背景の下に育った生徒が学ぶ中高一貫校づくりを目指しています。

開校に向けた準備委員会で案を出しながら、外国人生徒にもわかる校訓で、国際的に通用するものを考え、国境を越えたところで児童生徒が共生していく上で何が大事かという観点から、「Respect (尊敬) Integration (融和) Contribution (貢献)」という言葉を校訓として決めました。

総合的な学習の時間や清掃活動・地域貢献活動、国際交流事業などの取組を行い、校訓の理念の実現に努めています。

校訓を活かした学校づくりの進め方

○取組意識の共有

教員、児童生徒、保護者、地域住民等で目標・理念、学校づくりのための活動など取組意識の共有を図ることが第一歩です。



○関係者全体への浸透

校訓を活かした学校づくりの目標や方針について、より多くの関係者に浸透を図り、参画者の輪を拡大することが重要です。



○校訓を活かした学校づくりの積極的展開

一つの領域において学校づくりの取組が成果を挙げている場合には、他の領域にも取組を広げ、より良い学校づくりに向けた取組を積極的に展開していくことが重要です。



○次世代への継承

取組の行った関係者が替わっても、学年や世代を超えて取組を継承する工夫が必要です。

～ 校訓を活かした学校づくりの推進に向けて ～

「校訓を活かした学校づくり」により、児童生徒は愛校心や自立心を持ち、社会生活を行う上で必要な能力を身に付け、さらに地域の活性化も期待できます。

先生と子どもが一緒になって、各学校にある校訓を具体化する取組を継続的に実践し、地域でこれを応援しよう！

◇もっと詳しく知りたいと思ったら…

「校訓を活かした学校づくりの在り方について」（報告書）はWEBで！

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/21/08/1282870.htm